

茶のわん ゆんたく

お茶を飲みながら、
ぎのわんの歴史を
のぞいてみませんか？



昔から続く生活の道、県道(ウフミチ)

「謝名マガヤー」

みなさんは、自分の住んでいる地域の昔の地名をご存知でしょうか。

地名とは、昔からその土地に住む人々
がその土地を利用するためにつけた名で
す。他部落へ通じる道路の呼称はその行
先の部落名をとって、道の名前として呼
んでいる例や、井戸や墓といった対象物
をとって道の名前にしている例が多く、
県道や群道などの幹線道路は、日常的に
は単に「ウフミチ」(現在の国道58号線と
なる前の道)と呼ばれていました。他に
も「ナカミチ」(中道)、「フルミチ」(古い
道)などあります。



▲1945(昭和20)年



▲1958(昭和33)年



▲2019(令和元)年12月

口承されて現在に至っているのです
が、昨今、土地開発や区画整理などで昔
の土地の形姿が変わってしまい、その地
名がいった意味や由来などがわからなく
なっているのが現状です。

今回は、わかっている地名の中から道
について「謝名マガヤー」を紹介しま
す。謝名とは現在の場所というところ、大謝名・
真志喜・大山の地域を指します。マガヤー
は方言で曲がっているという事を意味し
ます。

なぜ、そのような名がついたのでしょ
うか。左上の写真は1945(昭和20)年
の航空写真です。旧県道(現在の国道58
号)の一部でちょうど真ん中あたりの道
が「くの字」に曲がっています。上が北谷
方面へつながり、下が浦添方面に伸びて
います。なぜ、このような形になったの
か分かっていませんが、道が曲がってい
たため、この地名がついたそうです。

真ん中は1958(昭和33)年の航空写
真です。謝名マガヤーはすっかり形が変
わり、道がまっすぐになっていきます。左
下の写真は、謝名マガヤー南側入口付近
の写真になります。

徒歩や馬車で移動していた時代は、こ
んなに曲がっていても特に問題なく大謝
名のシンボルだったに違いありません。

【問合せ】市立博物館 ☎870-9317



はじめに

今月は西普天間住宅地区返還跡地内
文化課が実施している埋蔵文化財調査の
中で、去年7月に確認された中頭方西海
道についてご報告します。

王国時代の公道

「中頭方西海道」は、首里王府からの諸
令達や地方からの貢租を運ぶために各間
切番所をつなぐ道として整備された宿道
(しゅくみち)の一つで、当時の宜野湾地
域でみると浦添間切から北谷間切へ向か
うルートがあったようです。

また、市指定文化財の伊佐浜「新造佐
阿天橋碑」には、中頭方西海道のルート
が喜友名の山手側を通る難渋な道であつ
たことから、伊佐の海岸側を通る平坦な
ルートに移動するため、1820年に架
橋したことが記されています。

調査の成果

王府時代の絵図や地図などでみる山手
川(喜友名)のルートが地区内を通ってい
たことが想定されたため、今回はその確
認のために試掘調査を実施しました。調
査の結果、石炭岩礫を敷き詰めて、道と
して整備した痕跡を発見しました。礫の



▲破線(赤)が想定ルート

大きさは数cmから20cmと大小様々
でしたが、多くは5cm程度の細かい礫が
使われていました。おそらく、雨などに
よる土砂の流出防止や地下浸透を助ける
排水機能のような役割があったと思われ
ます。今回見つかった礫敷きが王府時代
に中頭方西海道として整備されたものか
はわかりませんが、少なくとも戦前まで
は、周辺地域の方々が、日々の農作業の
ために田畑に向かう際の里道として利用
していました。

今回調査した箇所は、中頭方西海道の
想定ルートの一部でしかなく、今後も引
き続き地区全体のルートを把握するため
に調査を行う予定です。

【問合せ】文化課 ☎893-4430